

# Clinicopathological Features and Computed Tomographic Findings of 52 Surgically Resected Adenosquamous Carcinomas of the Lung

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2014-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 渡邊, 敬夫 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001578">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001578</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1515 号

## Clinicopathological Features and Computed Tomographic Findings of 52 Surgically Resected Adenosquamous Carcinomas of the Lung

(肺腺扁平上皮癌 52 切除例における臨床病理学的特徴及び CT 所見の検討)

渡邊 敬夫 (わたなべ ゆきお)

博士 (医学)

### 論文内容の要旨

肺腺扁平上皮癌は腺癌成分と扁平上皮癌成分を含む希な悪性腫瘍である。腺扁平上皮癌の臨床経過は他の肺癌組織型と比較し進行が早く予後不良と言われている。今回我々は、肺腺扁平上皮癌における診断及び予後因子を知る為に、臨床病理学的特徴及び薄切胸部 CT 所見を研究し、腫瘍の存在部位及び腺扁平上皮癌における腺癌成分含有率の臨床における効果も加えて検討した。

原発性肺癌切除例 4,923 例中、53 (1.1%)例の肺腺扁平上皮癌の手術が施行された。53 例中、術前に薄切胸部 CT が施行された 52 例を対象とした。

腺扁平上皮癌は 43 例が末梢に、9 例が中枢に存在していた。5cm を越える最大腫瘍径( $P = 0.012$ )、腫瘍周囲の炎症性変化を伴う CT 所見 ( $P = 0.040$ ) は、共に独立予後因子となった。最大腫瘍径 ( $P < 0.001$ )、有症状 ( $P = 0.01$ )、進行病理病期 ( $P = 0.03$ )、閉塞性肺炎病理像 ( $P < 0.01$ )、腫瘍周囲の炎症性変化を伴う CT 所見 ( $P = 0.005$ ) は中枢に存在する群と相関を認めた。52 例中 24 例が腺癌成分優位であり、28 症例は扁平上皮癌成分が優位であった。腫瘍辺縁のスリガラス陰影(GGO)の CT 所見は、腺癌成分が優位な群に多く見られた ( $P = 0.03$ )。肺腺扁平上皮癌は中心型において扁平上皮癌に特徴的な閉塞性肺炎病理像を呈し、腺癌成分優位群において肺胞上皮置換性増殖を伴う腺癌に特徴的な腫瘍周囲の GGO の CT 像を呈しており、腺癌と扁平上皮癌の二つの上皮系腫瘍の特徴を合わせもつ事が分かった。5cm を越える最大腫瘍径、腫瘍周囲の炎症性変化を伴う CT 所見は、各々独立した予後因子であった。